

前回の会議で提示した施策の体系（案）に対する意見

施策の体系		子ども・子育て会議での意見	事務局案
I 子どもの力：子どもの権利が尊重され、心豊かに育つことができる			
I-1 乳幼児期から心豊かに成長できる			
I-1-1	乳幼児期から多様な体験ができる環境を提供する	・自然と遊ぶ、ふれあう等、自然の中から学ぶという視点が入っていないのではないか。（D班）	
I-1-2	乳幼児期の教育・保育を充実させる	・幼稚園預かり保育の整備に、質の向上の観点も必要ではないか。 ・公立施設ではボーダーラインの子どもを受入れが増えており、民間でも受入れ態勢を検討する必要がある。 ・保育園や放課後児童クラブなどに来ていない子どもの実態を、どう把握するか。（A班） ・保育園と幼稚園では、集団生活への慣れが異なる。	
I-1-3	幼稚園・保育所（園）・小学校との連携を推進する		
I-2 青少年が生きる力を育むことができる			
I-2-1	放課後子ども総合プランを推進する	■「青少年」という表現が気になる。小学生と中学生以上では、大きく異なる。（B班） ・保育園や放課後児童クラブなどに来ていない子どもの実態を、どう把握するか。（A班）	I-2とI-3の位置づけを明確にし、「青少年の健やかな成長と自立を支援する」と「さまざまな課題や困難を抱える子ども・若者を支援する」に分類する。
I-2-2	地域における子どもの居場所を整備する	・「子ども会等の地域活動」が、主な事業に入ってもいいのではないか。（D班）	
I-2-3	多様な体験・交流・学びの機会を提供する		
I-2-4	社会と適切につながる場や機会を確保する	■「適切に」という表現は必要ないのではないか。大人目線の言葉と感じる。（D班）	
I-3 全ての子どもの自立を支援する			
I-3-1	子どもが自分を信じる力を持てる機会を確保する	■ I-3 だけ、支援する側が主語になっていないか。「全ての子どもが自立できる」とするべきではないか。（B班） ・放課後児童クラブについては、I-2「青少年が生きる力を育むことができる」に位置付けられているが、I-2とI-3の区分がよく分かりづらく、I-2が最も適切とは言えないように感じる。（B班） ・主な事業が、子ども夢フォーラムだけでは、施策として薄いのではないか。たとえばスポーツ事業でいえば、ドッチボールやソフトボールがうまくなったということも自己肯定感といえる。もっと幅広く見てもよいのではないか。（D班）	
I-3-2	子どもの不安や悩みを解消する	・もっと気軽に、身近に相談のできるような事業もここに入るとよい。（D班）	
I-3-3	社会適応の難しい青少年を支援する	■「社会適応が難しい」という表現は変えたほうがよい。いじめ等が要因の場合は、自分で難しくなったわけではない。（D班）	
I-3-4	障がいのある子どもの自立を支援する	・放課後等デイサービスのほかに、主な事業に児童発達支援を加えてはどうか（A班） ・車いすのお出かけマップを、主な事業に位置付けられないか。（D班）	
I-4 全ての子どもの権利が尊重される			
		■ 権利といいながら、体系の中では虐待等のマイナスなものが施策として位置づけられている。 ■ I-4の一番上に虐待が位置づけられているのは気になる。I-4-4の、子どもの意見表明の場に関する事業が必要であり、これをI-4の一番上に持っていくのがよい。（D班） ・子どもの権利を学ぶ場はあるのか。親も考えなければいけない。（C班） ・子ども自身へCAPプログラム等を教えることも重要ではないか。（A班）	I-4-4「子どもの参画」を推進するを一番上へ移動
I-4-1	子どもの虐待予防・対策を強化する		
I-4-2	子どもの未来応援（貧困対策）を推進する	■ 貧困対策のメインが子ども食堂であれば、＜Ⅲ＞地域の力に入れてもよいのではないか。※このままでもよいという意見もあり（B班）	修正しない
I-4-3	外国籍の子どもへの支援を充実させる	・日本語ができない子どもへの対応（学習支援等）は、今後の課題である。（A班） ・外国籍の子どもへの支援は、実際にあるのか。（B班）	

施策の体系		子ども・子育て会議での意見	事務局案
I-4-3	外国籍の子どもへの支援を充実させる（続き）	<ul style="list-style-type: none"> ■「外国籍」ではなく「多様な言語・多様な習慣を持っている子どもへの支援」なのではないか。（D班） ・外国籍の子どもには、まずは日本語を教えることが重要。子どもは日本の習慣に慣れていくが、親の習慣もある。（C班） 	修正しない
I-4-4	子どもが参画できる機会を推進する		

II 家庭の力 家庭の子育て力が向上し、安心して子育てができる		<ul style="list-style-type: none"> ■基本目標に「向上」という言葉を入れなくてもよいのではないか。「安心して」育てられることが、今は重要。（C班） 	修正しない。
II-1 妊娠・出産期から安心して子どもを産み育てられる			
II-1-1	安心して妊娠・出産できる支援体制を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・主な事業に、おやこDE広場を入れてはどうか。妊娠時からの支援にあたるため。（D班） ・「安心して」というキーワードを入れるなら、産後ケアだけでなく、新たな事業の開拓が必要。（D班） 	
II-1-2	親子の健康を推進する		
II-1-3	医療体制を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもが増える中、小児科は基本的に18歳までが対象だが、診療科を選択できるようにならないか。（A班） ・食物アレルギーの知識啓発や、感染症対策も主な事業に必要ではないか。（A班） 	
II-2 家庭の孤立や不安が解消される			「家庭の孤立や不安が解消される」と「子育ての充実感を持つことができる」の順番を入れ替え、そこに位置づけた施策も整理を行う
II-2-1	子どもの育ちについて学ぶ機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・「中高生と乳幼児のふれあい体験」（II-2-1）は、III-4-2に位置付けるほうがよいのではないか。「子どもや子育て家庭に関心を持つ人」は、若い人から増やしていくのがよい。（C班） ・行政主導型の施策になっている。民間活動導入の視点が必要。（D班） ・子どもの育ちだけでなく、「親として成長する」という視点を持ち、親に対してアプローチできるのではないか。その場面では民間活力の導入等が必要である。（D班） 	
II-2-2	出産や子育てに関する情報発信を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばや子育て支援センターとは別に、1か所でおおよその情報が得られる場所がほしい。（A班） ・不安の解消は人との間（直接のコミュニケーション）のみでできる。LINE等、人との間にないものが増えるのはよくないのではないか。（C班） 	
II-2-3	妊娠・出産・育児に関する不安を解消する	<ul style="list-style-type: none"> ・親の孤立を防ぐためにも、乳児家庭全戸訪問事業で情報提供できないか。（A班） ・保健所への電話はハードルが高い。気軽に立ち寄れる身近な場所がほしい。（A班） ・子育て支援についての情報発信を、主な事業に加えてはどうか。（A班） ・小学生以上の母親が困ったときの相談は、どこに入るのか。「児童家庭支援センター オリーブ」は県の事業だから、この計画には入れにくい。（B班） ・いきなり行政に相談に行くのも大事だが、もっと身近な地域で相談できる・つながれる場があればよいと思うので、地域との連携が必要だと思う。（D班） 	
II-3 子育ての充実感を持つことができる			
II-3-1	親子のコミュニケーションを育む機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・親子のコミュニケーションに課題があるのは、むしろ中高生以上なのではないか。（B班） ■ II-2に入れてもよいのではないか。（C班） ■ 親子のコミュニケーションがうまくいかないから不安になるので、II-2「家庭の孤立や不安が解消される」に持っていき、そして、そこで基礎力があつた上での、II-3の充実につながるのではない ・園庭開放は、保育園だけでなく幼稚園でも実施している。（D班） 	
II-3-2	多様な保育ニーズに対応できる地域子育て支援の充実		

施策の体系		子ども・子育て会議での意見	事務局案
II-3-3	ワーク・ライフ・バランスの推進	■ワーク・ライフ・バランスは全てにかかるものではないか。また、推進するならば、企業の努力が必要であり、＜Ⅲ＞地域の力に入れるべきものではないか。市民・行政・企業で話し合える場も必要。(B班)	「家族が協力して育児ができるようにする」と「就労支援の推進」に分ける
II-3-4	父親が活躍できる機会の充実	・「父親」とあえて言うのは適切か。男女共同参画の視点がほしい。(B班) ・父親も母親もフラットな書き方のほうがよい。父親が何もしていないような印象になってしまう。「父親が子育てに参画できる機会の充実」等。また、主な事業には、「町会・子ども会等の組織との連携」も位置付けられるのではないかと。(D班) ・男女共同参画の視点はどこに入っているのか。あえて言えば、Ⅲ-3か。(C班) ・男女共同参画の視点が入っていないように思う。「男女共同参画センターとの連携」を、主な事業に位置付けられないか。(D班)	「家族が協力して育児ができるよう支援を推進する」に変更
II-4 多様な課題への支援により、全ての家庭が安心して子育てできる		・ひとり親家庭への支援がII-4の一番上に来るのは違和感がある。II-4-4を一番上にしてはどうか。(D班)	「生活基盤の安定のために経済的な支援を推進する」を一番上にする
II-4-1	ひとり親家庭への支援を推進する		
II-4-2	外国籍の家庭への支援を推進する	・外国人の日本語学校の充実も、主な事業に加えてはどうか(A班) ・外国人と日本人の交流を促すような施策を考えたい。(B班)	
II-4-3	障がい児の子どもを持つ家庭への支援を推進する	・障がい児のいる家庭で、相談員がついていない家庭もある(A班) ・障がい児「等」としてはどうか。グレーゾーンの子どももいる。(D班)	「障害や発達不安を抱える子どもの家庭を支援する」に変更する
II-4-4	生活基盤の安定のために経済的な支援を推進する		

Ⅲ地域の力 地域の特色と活力を活かし、子どもと家庭を支える			
Ⅲ-1 子どもと子育て家庭が安全に安心して暮らせる			
Ⅲ-1-1	安全対策や防犯対策を強化する	・安心して生活できる環境、安全に遊べる環境が必要。(A班) ・防犯等の様々な取組みが、中学までは切れ目なく行われているが、高校になると途切れてしまう。防犯の対処法等、高校1年生の1学期に指導できないか。 ・子ども110番は、本当に駆け込めるのか。数を増やすだけで、実態と乖離してはいないか。(A班) ・スクールガードを、主な事業に足してはどうか。「子ども110番の家との交流」といった事業も必要ではないか。せつかく手を挙げてくれているのだから、能動的に連携する必要がある。(C班)	Ⅲ-1-1とⅢ-1-2を合体させ、「安全対策や防災対策を強化する」とする。
Ⅲ-1-2	防災対策を推進する	■防災だけでなく、災害時の連携も必要。「防災・災害対策を推進する」という表現のほうがいいのではないかと。たとえば、子ども会活動で、防災の専門家による講座を行ってはどうか。(D班) ・地域の防災等については、「町会・子ども会との連携」を主な事業に位置付けられるのではないかと。(D班)	
Ⅲ-1-3	親子が安心して外出できる環境を整備する	・お出かけマップを作るべき。父親も楽しめる場所、障がい者が行ける場所等、多様な用途が想定されるといい。お出かけマップはI-3-3にも位置付けられる。(D班) ・「子育てバリアフリー」の視点も必要ではないか。(D班)	
Ⅲ-2 子どもたちが地域でいきいきと成長できる			
Ⅲ-2-1	子どもが地域で交流できる機会を増やす	・共働き家庭が増えて、子ども会加入者が減少している。子ども会活動は、子ども自身が楽しんで身になるようなことをする必要がある。子どもや家庭のニーズを知ることが重要。(A班) ・地域イベントの連携が位置付けられるのではないかと。お祭り等、地域が盛り上がるものの活用が考えられる。(D班) ・子どもフォーラムや子育て支援センターも、主な事業に位置付けられるのではないかと。(D班)	

施策の体系		子ども・子育て会議での意見	事務局案
Ⅲ-2-2	青少年が社会にかかわる機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもも大人も刺激しあえる取り組みが必要。(A班) ・青少年相談員が、主な事業に位置付けられていてもいい。(D班) 	
Ⅲ-3 子どもと子育て家庭に関わるネットワークを充実させる		<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-3とⅢ-4の違いが分かりにくい。表現を変えるべきではないか。(B班) ・「年齢を問わず、地域の力を結集する」ことが重要。(B班) ・行政主導の施策ばかりで、協働・連携の視点のものが少ない。(D班) 	「子ども・子育て支援の支援者ネットワークを強化する」に変更
Ⅲ-3-1	地域で子育て支援に関わる個人・団体との連携を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークに含まれるべきものが変わってきている。企業、大学、町会等、全てを含んで「地域」である。 ・ご近所の交流を促す事業があるとよい。(B班) 	
Ⅲ-3-2	子育て支援に関わる人材を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援員を育てるとあるが、スペシャリストを育てることよりも、ごく普通の近隣の人とのコミュニケーションがないことが現在の問題なので、そういうところを促進する事業はどうか。(B班) 	Ⅲ-3-2とⅢ-3-3を結合し、「地域の人子どもに関わる機会を増やす」に変更する
Ⅲ-3-3	豊富な知識、経験を持つ地域の人活躍する機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・「Let's体験」は夏休みだけでなく、さらに拡充できないか。高齢者の活躍も必要ではないか。(A班) ・男女共同参画の視点はどこに入っているのか。あえて言えば、Ⅲ-3か。(B班) ・高齢者が力を発揮できることが重要。「高齢者の力を発揮できる地域」をどこかに入れたほうがよいのではないか。(B班) ・町会内の老人会と子ども会が接点なくバラバラに活動している状況だが、どうにか接点ができるような推進ができないかというところが重要である。(B班) ・高齢者との協働も大切になってくるのではないか。(C班) ・「豊富な知識、経験を持つ」という表現はなくてもよいのではないか。高齢者だけでなく、広く参加を求める視点が必要。(C班) 	
Ⅲ-4 子どもと子育て家庭を地域全体で応援する		<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-4は主語が子どもではない。地域力だからか。 	
Ⅲ-4-1	企業や大学との連携を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳大学だけでなく、町会や自治会との連携も入れるべき。町会や自治会を基本として、より多くの関係団体と連携していく。(B班) ・市民と行政と企業とが話し合いができる場が必要ではないか。(B班) ・「聖徳大学」と、大学を特定する表現である必要はあるのか。「市内の大学」等の表現でよいのではないか。(C班) ・学校が主体の事業がないのが気になる。(B班) 	「企業や学校等の連携を推進する」に変更
Ⅲ-4-2	子どもや子育て家庭に関心を持つ人たちを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児の親は常に不安があり、いかにやわらげるかが課題。社会資源が足りていないと思う。(A班) ・「中高生と乳幼児のふれあい体験」(Ⅱ-2-1)は、Ⅲ-4-2に位置付けるほうがよいのではないか。「子どもや子育て家庭に関心を持つ人」は、若い人から増やしていくのがよい。(C班) 	

その他

- ・施策が時系列で表現されているとわかりやすいのではないか。たとえば、対象となる子どもの年齢を記載するなど、パッと見てわかるとよい。(A班)
- ・ひとつの事業がひとつの目標だけにあてはまるとは思わないが、今回は最もふさわしいところに入れこんでほしい。(B班)
- ・学校が主体の事業がないのが気になる。(B班)
- ・子、親、まちの3つの力で初期計画は作成されていたように記憶しているが、親を家庭になぜ変更したのか知りたい。(B班)
- ・推進と充実という言葉が多用されているが、どう使い分けているのか。(C班)
- ・「子どもの力」というところで、大人や親の影響が非常に大きい存在で、見やすいものにする必要は当然あるが、ⅡとⅢとの関連性を何とか表現できないだろうか。(C班)